

第3章 戦略の基本理念・基本方針

第1節 目指すべき将来像

他地域との広域交流による地域活性化をもたらす公共交通

北陸新幹線の開業や広域的道路網の整備により、広域的な交通結節機能が構築され、県西部・飛越能地域だけでなく関東・中京圏とのビジネスや観光での広域的な交流が期待されます。

一方、関西圏との広域的な交流については、JR北陸本線の並行在来線化により旅客の利便性への影響が懸念されることから、交流を支える取組みや利便性の向上などが求められます。

広域的な交流により、各地域の活力を本市に取り込み、また成長していくため、都心交通軸の強化や、各地域との連携強化などが求められます。

市内公共交通の利便性の向上と利用の定着化

公共交通には、安全・安心を基本として、通勤、通学、通院、買い物などの日常生活を支える役割が期待されます。

また、日頃の過度な自動車利用を控え、環境に配慮し、公共交通を利活用する日常生活への転換を誘導することが求められます。

人口減少社会対応型都市構造にあわせて整備された交通ネットワーク

少子高齢化がますます進展する人口減少社会において、ビジネスや生活といった各機能の集約・再編による都市構造の改善や、分散する市街地を結ぶ各種交通網の整備による利便性の向上が求められます。

恵まれた歴史・文化資産を活かす交通・観光ネットワーク

市内に点在する歴史・文化資産と交通拠点を様々な交通手段で結び、歴史・文化での観光交流に活かすだけでなく、広域的な観光拠点として周辺地域との連携を強化し、交流を促進することが求められます。

第2節 理念・基本方針

目指すべき将来像の実現のためには、市民・交通事業者・行政機関等が共通の目標のもと一体となり、総合的に取り組みを進めることが必要です。

高岡市総合交通戦略の推進を図るため、明確な理念のもと、戦略的に交通施策を進めます。

(1) 戦略の理念

公共交通からまちを変える

アクティブ交流拠点都市 高岡を目指して

平成26年度末の北陸新幹線開業により、高岡市では、関東圏との交通利便性が飛躍的に向上するほか、これに併せて新高岡駅と直結する城端線新駅の設置、JR北陸本線の並行在来線化などにより、地域の公共交通は大きく変貌を遂げようとしています。

モータリゼーションの進展による利用率の減少や少子高齢社会の中にあつて、公共交通には、北陸新幹線と各拠点との連携等の対策や、市民の日常生活を支える役割などが求められています。

一方、三大都市圏や県西部・飛越能地域における広域交流拠点となる特性を活かし、各地域との交流・連携を強化し、本市と周辺地域の発展を支え、地域の活力を取り込んでいくことが求められています。

また、将来にわたる公共交通の維持・向上を図るため、交通需要の基となる市民意識を自動車から公共交通へと転換させ、公共交通利用の定着を図るほか、都市機能や市民生活機能の集積・集約などを図ることにより、公共交通が基盤となる市民生活への転換が求められています。

高岡市総合交通戦略では、「公共交通からまちを変える アクティブ交流拠点都市 高岡を目指して」を戦略の理念とし、安全・安心で利便性の高い公共交通体系を構築するとともに、公共交通を利活用できる市民生活が実現するよう、実効性のある施策を進めます。

(2) 戦略の基本方針

基本方針1 都市の成長を高める広域交通体系の構築

北陸新幹線開業に伴い、広域的な旅客流動の増加が見込まれる中、高岡市は交通結節点としての役割が求められ、周辺地域とともに成長し、その成長を取り込んでいくために各地域との結びつきを強化する施策が求められます。

大都市圏・飛越能地域・県西部地域それぞれとの交通軸の強化や、広域交通拠点としての環境充実を図り、都市の成長を高める広域交通体系を構築します。

基本方針2 市内を円滑に移動できる交通体系の構築

市内外でアクティブに活動する市民や、生活交通の利便性が低い市民、ビジネスや観光で高岡市へ訪れる人々など、誰もが市内を円滑に移動できる交通体系が求められています。

都心・都市交通軸の強化、公共交通不便・空白地域の改善、観光を促進する公共交通の整備を図り、市内を円滑に移動できる交通体系を構築します。

基本方針3 安全・安心な交通環境とサービス水準の向上

今後も公共交通を維持していくためには、市民や来訪者の公共交通利用促進や、公共交通利用者の快適性・利便性の向上、公共交通に関する適切な情報提供、環境やデザインに配慮する取組みなどが求められています。

交通モード間の乗り継ぎ、交通施設等や情報提供手法の改善をはじめ、公共交通等を活用した賑わいの創出、環境に配慮した車両・施設の改善を図り、安全・安心で利用しやすい公共交通サービスを提供します。

基本方針4 公共交通を利活用するライフスタイルへの転換

公共交通を利用する市民が減少傾向にある中、人口減少社会を見据え、公共交通利用の定着化や過度に自動車に依存するライフスタイルからの脱却、拡散した市街地の集約化が求められています。

利用者意識の醸成、利用者へのインセンティブ強化、都市機能の集約化を図り、公共交通を利活用するライフスタイルへの転換を進めます。